



2023年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月3日
東

上場会社名 川口化学工業株式会社
 コード番号 4361
 代表者(役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理部長
 四半期報告書提出予定日 2023年7月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所
 URL <https://www.kawachem.co.jp>
 (氏名) 山田 秀行
 (氏名) 本間 義隆 (TEL) 048-222-8024
 配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第2四半期の連結業績(2022年12月1日~2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第2四半期	4,206	6.6	156	△30.9	156	△33.6	120	△32.6
2022年11月期第2四半期	3,946	1.6	226	△16.2	235	△13.8	179	△8.3

(注) 包括利益 2023年11月期第2四半期 129百万円(△30.5%) 2022年11月期第2四半期 186百万円(△14.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第2四半期	99.17	—
2022年11月期第2四半期	147.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年11月期第2四半期	7,970	2,480	31.1
2022年11月期	8,321	2,411	29.0

(参考) 自己資本 2023年11月期第2四半期 2,480百万円 2022年11月期 2,411百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2023年11月期	—	0.00	—	—	—
2023年11月期(予想)	—	—	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の連結業績予想(2022年12月1日~2023年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,000	7.5	250	△14.9	250	△17.4	180	△17.8	147.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社、除外 一社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年11月期2Q	1,220,000株	2022年11月期	1,220,000株
② 期末自己株式数	2023年11月期2Q	2,531株	2022年11月期	2,436株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年11月期2Q	1,217,469株	2022年11月期2Q	1,217,564株

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3 「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は地域ごとに差はあるものの、世界経済は総じて緩やかな景気回復が見られました。一方、ロシアによるウクライナ侵攻が継続し、資源価格、エネルギー価格の高騰、インフレ圧力が続いております。

米国では、景気回復が堅調に推移していましたが、インフレ抑制のための急激な金融引き締め政策は一部の銀行の経営破綻や金融不安を招きました。

中国においては、輸出や不動産の低迷はあるものの、内需主導で個人消費を中心に緩やかな回復傾向が見られます。しかしながら、中国や東南アジアの景気回復の勢いは力強さに欠ける状況です。

日本経済も、個人消費、輸出を中心に緩やかな回復基調が続く中、エネルギー価格及び原材料価格の高騰は継続しており、物価上昇は、個人消費の悪化をもたらす景気の下振れへの懸念となりました。

当社グループに関係の深い自動車産業においては世界的な半導体不足、部品供給の制約が緩和し、国内自動車生産台数は前年を上回る状況となりました。

このような環境の中、当社グループは2022年を起点とする中期経営計画(第121期「2022」から第125期「2026」まで)をスタートし、企業価値向上に向け、その中で設定した目標の実現、これまで培ってきた当社が得意とする合成技術を活用し、受託合成品の拡大、品質・技術に優位性を持つ医療用ゴム用途製品、医療用途脱水縮合剤、電子材料用途製品の製造販売に注力、成長分野での市場拡大を積極的に進めました。

一方、生産においては採算性を重視しより一層の経営資源の効率化とコストダウンを全社規模で取り組みました。また、原材料価格、エネルギーコスト及び物流費高騰が続く中、コスト上昇に応じた製品への価格転嫁を、総力を挙げて推進致しました。

ゴム薬品の販売は、自動車関連を中心に国内外の顧客における在庫調整と、中国市場の低迷の影響を受け、販売数量は前年同期を下回りましたが、価格改定の効果もあり、売上は前年同期を上回りました。中間体、その他薬品については、売上は前年同期を上回りましたが、樹脂薬品については売上が前年同期を下回りました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は42億6百万円(前年同期比6.6%増)、営業利益は1億56百万円(同30.9%減)、経常利益は1億56百万円(同33.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億20百万円(同32.6%減)となりました。

セグメント業績の概況は次のとおりであります。

①化学工業薬品事業

売上高は41億87百万円(同6.6%増)、セグメント利益(営業利益)は1億40百万円(同33.2%減)となりました。

②不動産賃貸事業

売上高は19百万円(同1.0%増)、セグメント利益(営業利益)は15百万円(同1.2%増)となりました。

(化学工業薬品事業の部門別の概況)

<ゴム薬品>

ゴム薬品の分野において、国内の工業用品向け製品は半導体不足が緩和され自動車生産が回復基調となりましたが、関連製品の在庫過多による顧客での生産調整の影響を受けました。その結果、一部製品は売上を増やしましたが、自動車部品関連向け製品全体では売上が減少しました。

また、医療用ゴム用途製品は顧客での在庫調整の影響を強く受け、販売が減少、売上は前年同期を下回りました。タイヤ向け製品は主力製品の販売数量増加、原料エネルギーコスト上昇分の製品価格への転嫁により売上は前年同期を上回りました。合成ゴム向けは顧客における生産調整の影響を受け販売数量が減少しましたが、販売を伸ばした製品もあり全体では売上は前年同期を上回りました。

海外向けは、中国での景気減速の影響を受け自動車産業向けを中心に販売数量は減少しましたが、タイヤ用途向け製品の販売は増加、当社が得意とする医療用ゴム用途製品は需要が減速、売上が減少しました。

この結果、ゴム薬品部門合計の売上高は22億18百万円(前年同期比0.2%増)となりました。

<樹脂薬品>

樹脂薬品の分野は、国内向けについては主要顧客であるアクリル酸・アクリル酸エステルが需要が低迷し、主要製品である重合防止剤の売上が前年同期を下回りました。海外向けについてはアクリル酸・アクリル酸エステル向け重合防止剤、電子材料関連向け製品、ナイロン向け主要製品の売上はいずれも前年同期を下回りました。

この結果、樹脂薬品部門合計の売上高は4億58百万円（同12.7%減）となりました。

<中間体>

中間体部門においては、農薬中間体は販売が好調に推移し売上が前年同期を大きく上回りました。医薬中間体について国内向けは医療用途脱水縮合剤を中心に売上が増加しました。海外向けは売上を増やした製品もありましたが減少した製品もあり、全体では売上は前年同期を下回りました。界面活性剤中間体は顧客の需要回復に対応し、売上は前年同期を上回りました。染顔料向けは主要製品の旺盛な需要に対応し売上を大きく伸ばしました。

この結果、中間体部門合計の売上高は6億22百万円（同15.0%増）となりました。

<その他>

品質・技術に優位性を持つ電子材料用途脱水縮合剤の販売は顧客要望に対応した結果、前年同期を上回りました。

環境用薬剤においては、需要の変化に迅速かつ柔軟に対応したことにより販売を増やし売上は前年同期を上回りました。レンズ用途向け特殊添加剤は需要増に迅速に対応し売上を増やしました。また、電子材料向けにおいても当社が得意とする合成技術を基盤とする製品の販売に注力し、売上を大きく伸ばしました。

この結果、この部門合計の売上高は8億88百万円（同37.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産につきましては79億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億50百万円減少いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が1億93百万円、棚卸資産が1億50百万円減少したことによります。

負債につきましては54億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億20百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金が3億40百万円、未払金が1億15百万円減少したことによります。

純資産につきましては24億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ69百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が59百万円増加したことによります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ88百万円増加（前年同期は3億35百万円の減少）し、9億99百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前四半期純利益、売上債権の減少、棚卸資産の減少等による資金の増加に対し、仕入債務の減少、引当金の減少等による資金の減少により2億23百万円の収入（前年同期は1億24百万円の支出）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、有形固定資産の取得による支出等により2億17百万円の支出（前年同期は1億20百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、短期借入金の増加による資金の増加に対し、長期借入金の返済による支出、配当金の支払等により79百万円の収入（前年同期は1億4百万円の支出）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月期の通期連結業績予想につきましては、2023年1月13日に公表いたしました連結業績予想数値からの変更はございません。詳細につきましては、本日公表の「2023年11月期第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	910,919	999,341
受取手形及び売掛金	2,853,489	2,659,822
商品及び製品	1,117,901	1,096,987
仕掛品	442,041	370,967
原材料及び貯蔵品	498,946	440,825
その他	67,670	19,998
貸倒引当金	△4,850	△4,521
流動資産合計	5,886,119	5,583,421
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	1,103,098	1,021,408
その他(純額)	1,112,227	1,146,866
有形固定資産合計	2,215,325	2,168,275
無形固定資産		
その他	16,895	21,255
無形固定資産合計	16,895	21,255
投資その他の資産		
その他	204,484	198,900
貸倒引当金	△1,300	△1,300
投資その他の資産合計	203,184	197,600
固定資産合計	2,435,405	2,387,131
資産合計	8,321,524	7,970,553
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,637,355	1,296,536
短期借入金	1,960,000	2,160,000
1年内返済予定の長期借入金	100,801	451,673
未払金	338,236	222,420
未払法人税等	29,869	35,107
未払消費税等	-	67,192
役員賞与引当金	16,500	5,400
その他	339,654	206,851
流動負債合計	4,422,416	4,445,181
固定負債		
長期借入金	965,318	563,650
役員退職慰労引当金	102,690	76,365
退職給付に係る負債	290,979	265,768
その他	128,773	139,184
固定負債合計	1,487,760	1,044,967
負債合計	5,910,177	5,490,149

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	610,000	610,000
資本剰余金	58,437	58,437
利益剰余金	1,686,444	1,746,303
自己株式	△8,202	△8,202
株主資本合計	2,346,679	2,406,538
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,233	33,340
為替換算調整勘定	37,433	40,523
その他の包括利益累計額合計	64,667	73,864
純資産合計	2,411,347	2,480,403
負債純資産合計	8,321,524	7,970,553

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年12月1日 至2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年12月1日 至2023年5月31日)
売上高	3,946,010	4,206,904
売上原価	3,148,143	3,491,200
売上総利益	797,867	715,704
販売費及び一般管理費	571,571	559,348
営業利益	226,296	156,355
営業外収益		
受取利息	1,034	1,216
受取配当金	1,246	1,371
貸倒引当金戻入額	89	329
為替差益	9,057	24
受取補償金	2,384	1,763
その他	4,212	4,105
営業外収益合計	18,024	8,810
営業外費用		
支払利息	8,797	8,868
その他	45	36
営業外費用合計	8,843	8,904
経常利益	235,477	156,261
特別損失		
固定資産除却損	1,736	1,064
特別損失合計	1,736	1,064
税金等調整前四半期純利益	233,741	155,197
法人税、住民税及び事業税	50,834	26,666
法人税等調整額	3,857	7,797
法人税等合計	54,692	34,464
四半期純利益	179,048	120,732
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	179,048	120,732

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	179,048	120,732
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,428	6,107
為替換算調整勘定	13,316	3,090
その他の包括利益合計	7,887	9,197
四半期包括利益	186,936	129,929
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	186,936	129,929
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	233,741	155,197
減価償却費	195,400	201,810
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△89	△329
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△256	△25,210
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△13,800	△11,100
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△29,150	△26,325
受取利息及び受取配当金	△2,281	△2,588
為替差損益 (△は益)	△100	678
支払利息及び社債利息	8,797	8,868
固定資産除却損	1,736	1,064
売上債権の増減額 (△は増加)	52,371	193,667
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△372,913	150,108
仕入債務の増減額 (△は減少)	28,004	△340,818
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△38,468	67,192
その他	△101,200	△120,768
小計	△38,207	251,448
利息及び配当金の受取額	2,281	2,588
利息の支払額	△8,773	△8,811
法人税等の支払額	△79,585	△22,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	△124,285	223,197
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△122,749	△220,908
無形固定資産の取得による支出	△1,800	—
その他	3,929	3,893
投資活動によるキャッシュ・フロー	△120,620	△217,015
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	200,000
長期借入金の返済による支出	△36,658	△50,796
リース債務の返済による支出	△6,910	△8,861
配当金の支払額	△60,587	△60,513
財務活動によるキャッシュ・フロー	△104,155	79,828
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,416	2,411
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△335,645	88,421
現金及び現金同等物の期首残高	1,319,778	910,919
現金及び現金同等物の四半期末残高	984,133	999,341

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当第2四半期連結累計期間
(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,927,014	—	3,927,014	—	3,927,014
その他の収益	—	18,995	18,995	—	18,995
外部顧客への売上高	3,927,014	18,995	3,946,010	—	3,946,010
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,927,014	18,995	3,946,010	—	3,946,010
セグメント利益	211,104	15,191	226,296	—	226,296

(注) 1. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注)
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	4,187,724	—	4,187,724	—	4,187,724
その他の収益	—	19,179	19,179	—	19,179
外部顧客への売上高	4,187,724	19,179	4,206,904	—	4,206,904
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,187,724	19,179	4,206,904	—	4,206,904
セグメント利益	140,979	15,375	156,355	—	156,355

(注) 1. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計
顧客との契約から生じる収益	3,927,014	—	3,927,014
ゴ ム 薬 品	2,214,495	—	2,214,495
樹 脂 薬 品	524,495	—	524,495
中 間 体	541,544	—	541,544
そ の 他	646,478	—	646,478
その他の収益	—	18,995	18,995
外部顧客への売上高	3,927,014	18,995	3,946,010

当第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	化学工業薬品事業	不動産賃貸事業	計
顧客との契約から生じる収益	4,187,724	—	4,187,724
ゴ ム 薬 品	2,218,951	—	2,218,951
樹 脂 薬 品	458,033	—	458,033
中 間 体	622,610	—	622,610
そ の 他	888,129	—	888,129
その他の収益	—	19,179	19,179
外部顧客への売上高	4,187,724	19,179	4,206,904

(重要な後発事象)

該当事項はありません。